

物理療法 SSP(経皮的電気刺激治療器)

今回は、物理療法機器の第3弾として SSP療法をご紹介します。

SSP療法とは、電極をツボに置き、低周波通電を行うツボ表面刺激法のことを言います。中国の針麻酔をベースに刺さない針治療という発想から生まれました。

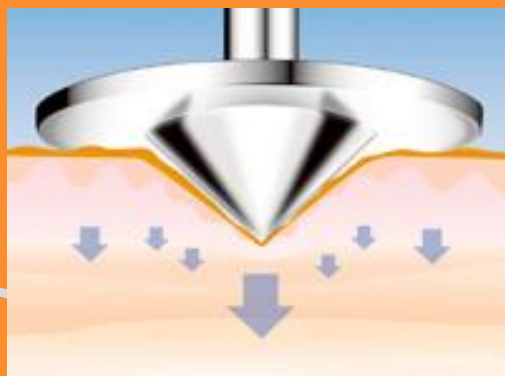
SSPの電極はコマのような形をしており、効果的にツボを圧迫できるようになっています(注1)。電極部分は真鍮に銀メッキが施されており、電流が流れやすくなっております。電流が電極の先端に集中し、針で皮膚を刺激したときと同じような刺激を加えることができます。

これにより、局所の血流改善による発痛物質 (注1)

の除去(疼痛の緩和)、神経伝達物質による痛みの抑制、ストレスの緩和による自然治癒能力の回復などの効果が得られます。

次にMCC治療モードのご紹介です。MCC治療とは両手首、足首の4点から微弱な流すことでホメオスターシス(生体恒常性)(注2)を調整し、全身の細胞を活性化を促す療法です。通常の電気刺激療法の後に行うことでより一層効果が高まります。

SSP療法をご希望の方はまず診察にてご相談ください。



(注2)生体恒常性とは、身体の外から受ける環境や内部の変化にかかわらず、身体の状態を一定に保つこと。

